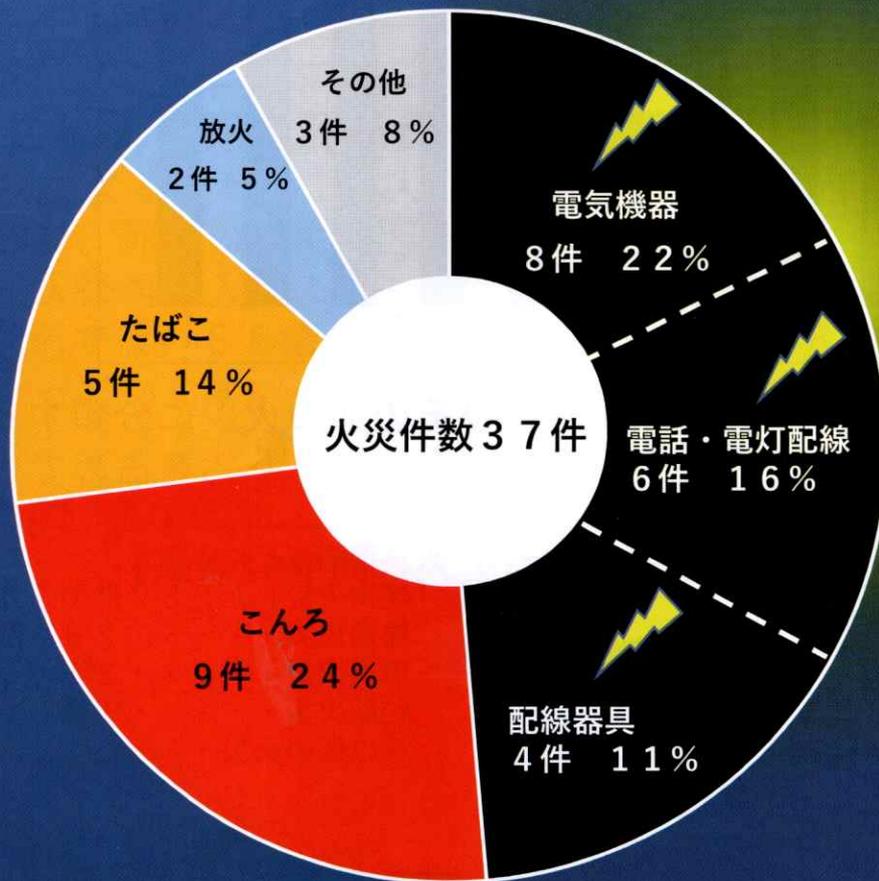


身近に潜む火災危険から

# 命を守ろう！

令和6年中の火災・救急件数等の概況について

多摩区内の火災原因のトップは、  
**「電気火災」**  
(18件 約49%)



区内・火災原因別件数（令和6年中）

多摩防火協会 多摩消防署

# 1 火災概要

## 令和6年中の火災・救急件数等の概況について（速報）

- ・ 令和6年中の火災、救急及び119番通報の件数を次のとおりまとめました。
- ・ いずれの件数も過去10年間で最多の件数となりましたので、引き続き火の元には十分御注意いただくと共に、救急車の適時・適切な利用に御協力くださいますようお願いいたします。

### (1) 市内火災件数

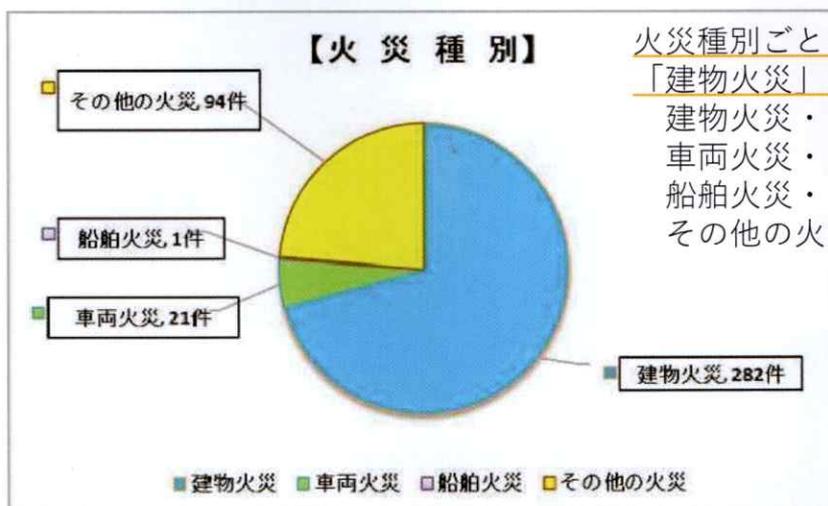
- ・ 令和6年中の火災件数は398件で、令和5年中の390件から8件増加し、1日当たりの発生件数は約1.1件でした。また、過去10年間の平均火災件数は約355件となります。



火災は増加傾向ですので、注意が必要です！



- ・ 火災件数を建物、車両及びその他の火災に分類すると、建物火災が282件と最も多く、全体の70%を占めています。

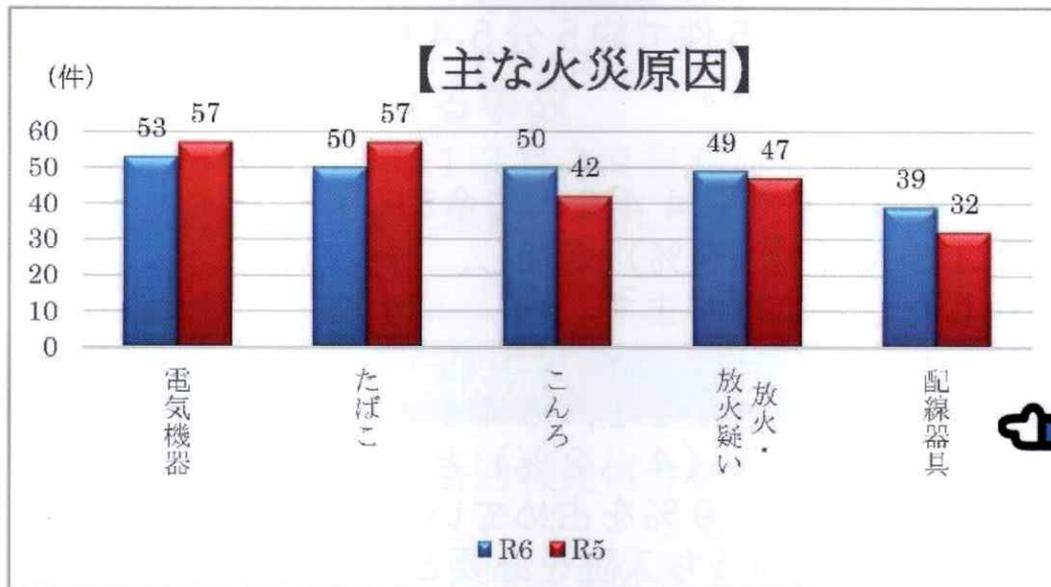


火災種別ごとにみると、「建物火災」が282件で70%を占める。  
建物火災・・・282件  
車両火災・・・21件  
船舶火災・・・1件  
その他の火災・・・94件



## (2) 火災原因

火災原因は、「電気機器」が53件で1位、2位は「たばこ」と「こんろ」がともに50件、4位は「放火（疑いを含む）」で49件となっており、前年と比較すると「電気機器」は4件減少、「たばこ」は7件減少しているものの「こんろ」は8件増加しています。



## (3) 火災による死者及び負傷者の状況

ア 火災による死者は14人で、前年と比較すると11人増加しており、死者の発生原因別では、逃げ遅れによるものが7人、出火後再進入によるものが2人となっています。

年齢別では、65歳以上の高齢者が7人、65歳未満が7人となっています。

イ 火災による負傷者は72人で、前年と比較して16人減少しています。



## 2 救急概要

### (1) 救急出場件数

令和6年中の救急出場件数は、89,114件で過去最多の出場件数となりました。

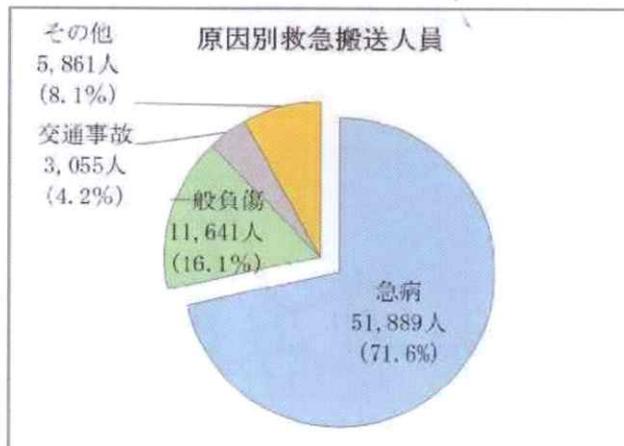
令和5年に比べ1,523件(1.7%)増加し、1日平均出場件数は243.5件で約5分54秒に1件の割合で救急出場したことになります。

### (2) 搬送人員

ア 搬送人員は、72,446人で令和5年に比べて1,336人(1.9%)増加し、市民の21.4人に1人を搬送したことになります。

イ 原因別の搬送人員は、急病が51,889人(71.6%)、一般負傷者が11,641人(16.1%)、交通事故が3,055人(4.2%)となっており、この3種の原因で全体の91.9%を占めています。

なお、搬送人員のうち入院を必要としない「軽症者」は、37,657人で全体の52.0%となっています。



救急車の適正  
利用を！！



### (3) 令和6年中の特徴

救急出場件数は、4年連続で増加しており、搬送人員を年齢別割合で見ると、65歳以上の高齢者は57.7%で、前年より1.9ポイント増加しました。その他、成人（18歳から64歳）は33.3%で、前年より0.8ポイント減少、少年（7歳から18歳未満）は3.2%で前年より0.1ポイント減少、乳幼児（7歳未満）は5.8%で、前年より1.1ポイント減少しました。

### (4) 年末年始の餅による事故

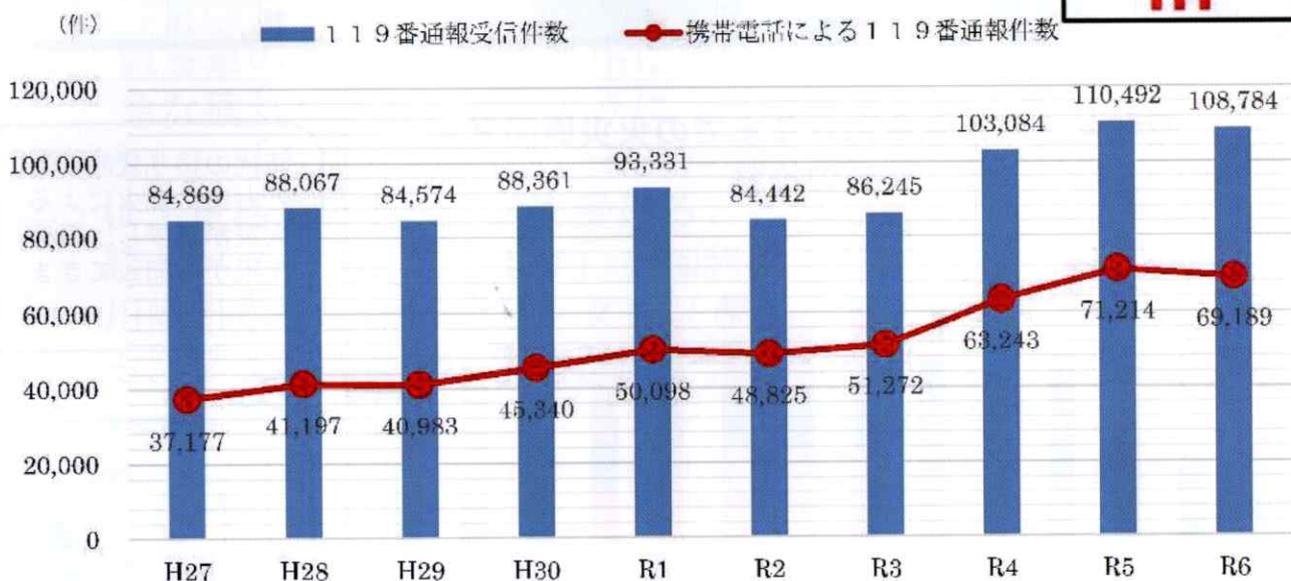
年末年始（令和6年12月29日から令和7年1月3日まで）に餅を喉に詰まらせて救急搬送された件数は3件で、前年同時期は1件となっています。

## 3 119番通報受信状況

- ・令和6年中の119番通報受信件数は、108,784件で、前年と比べて1,711件（1.55%）減少し、1日平均の受信件数は、約297.2件（4分51秒に1件）でした。
- ・また、携帯電話による119番通報は、69,189件（全体の63.6%）で、前年と比べて2,027件減少しました。



過去10年の119番通報受信状況



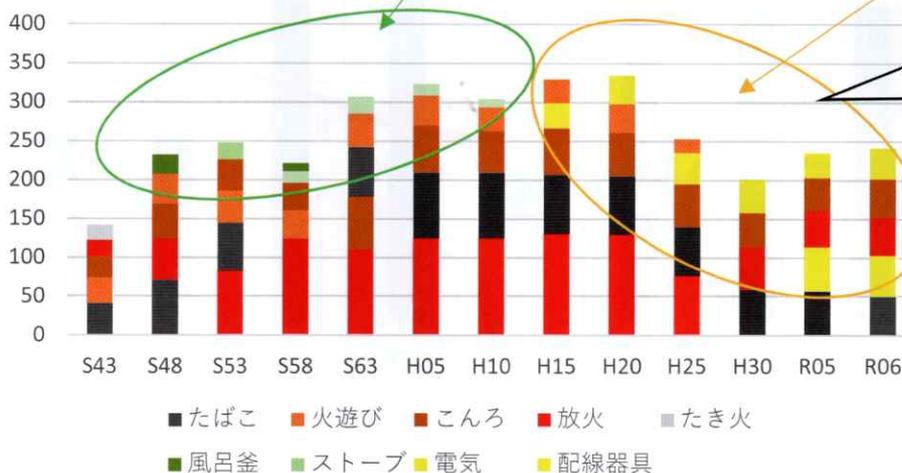
## 4 火災の原因及び件数の推移について

- ・昭和43年、48年頃は、放火の件数は徐々に増えており、昭和51年から令和2年までは放火が1位、2位を独走していました。
- ・昭和から平成初期は、時代を反映してストーブや風呂釜などの裸火を使用する機器を原因とした火災が多い傾向にありました。
- ・平成中期からは裸火に代わるエネルギーである電気に関係した火災が増加しており、令和5年には電気機器と配線器具を合算すると火災原因の第1位になります。
- ・しかし、こんろやたばこなどは常に火災原因の上位であり、電気も使用方法や管理に起因するものが多いので、火災を減らすためには皆様一人ひとりが火や電気を取り扱う際の注意を怠らないことが重要となるでしょう。

昭和43年から令和6年までの火災原因及び件数の推移

| 順位 | 項目       | S43       | S48         | S53        | S58         | S63        | H05        | H10        | H15       | H20       | H25       | H30        | R05        | R06        |
|----|----------|-----------|-------------|------------|-------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|-----------|------------|------------|------------|
| 1  | 原因<br>件数 | たばこ<br>41 | たばこ<br>71   | 放火<br>83   | 放火<br>124   | 放火<br>110  | 放火<br>125  | 放火<br>125  | 放火<br>131 | 放火<br>130 | 放火<br>77  | たばこ<br>59  | たばこ<br>57  | 電気機器<br>53 |
| 2  | 原因<br>件数 | 火遊び<br>33 | 放火<br>53    | たばこ<br>62  | 火遊び<br>37   | こんろ<br>69  | たばこ<br>85  | たばこ<br>85  | たばこ<br>76 | たばこ<br>75 | たばこ<br>63 | 放火<br>55   | 電気機器<br>57 | たばこ<br>50  |
| 3  | 原因<br>件数 | こんろ<br>27 | こんろ<br>45   | 火遊び<br>41  | こんろ<br>35   | たばこ<br>63  | こんろ<br>60  | こんろ<br>53  | こんろ<br>60 | こんろ<br>56 | こんろ<br>55 | こんろ<br>44  | 放火<br>47   | こんろ<br>50  |
| 4  | 原因<br>件数 | 放火<br>21  | 火遊び<br>39   | こんろ<br>40  | ストーブ<br>15  | 火遊び<br>43  | 火遊び<br>38  | 火遊び<br>30  | 電気<br>32  | 火遊び<br>37 | 電気<br>40  | 配線器具<br>22 | こんろ<br>42  | 放火<br>49   |
| 5  | 原因<br>件数 | たき火<br>20 | 風呂かまど<br>24 | ストーブ<br>22 | 風呂かまど<br>10 | ストーブ<br>22 | ストーブ<br>15 | ストーブ<br>11 | 火遊び<br>30 | 電気<br>36  | 火遊び<br>18 | 電気機器<br>21 | 配線器具<br>32 | 配線器具<br>39 |

昭和43年から令和6年までの火災原因と件数の推移



時代の移り変わりとともに、裸火による火災が減少し、電気火災が増加してきました。



## 5 消防局からのお願い

(1) **電気火災**（電気機器、配線器具、電灯・電話等の配線、電気装置に起因する火災）が、近年、急増しています。「電化製品は、取扱い説明書どおりに使用する。」、「モバイルバッテリー等のリチウムイオン電池は圧力・衝撃を与えず、変形しているなどの異常があれば使用を中止する。」、「電気コードが傷んでいる場合や、プラグが変形している場合は使用を控える。」、「プラグはしっかりと差し込んだ状態で使用する。」等の基本的な対策をお願いします。

(2) **たばこ**は、「灰皿には水を張り、確実に消火する。」、「ポイ捨てはしない。」等、日頃から喫煙マナーを守るようお願いいたします。**こんろ**は「調理中に目を離さない。」等の基本的な対策をお願いします。

(3) **放火**は、「家の周りは整理整頓し燃えやすいものを置かない。」、「ごみは決められた日の朝に出す。」等、放火されない環境づくりに御協力をお願いします。

(4) **住宅火災による被害の軽減**に向けて、「住宅用火災警報器」の設置及び維持管理をお願いします。いざというときに正しく作動するよう、定期的に作動確認を行うことを習慣づけてください。

(5) **救急車の適時・適切な利用**に御協力ください。

急な病気やケガをしたときに、「救急車を呼んだ方がいいのか」、「今すぐ病院に行った方が良いのか」などで迷った際は、電話でアドバイスを受けることができる、かながわ救急相談センター（＃7119）を御利用ください。

川崎市救急医療情報センター（044-739-1919）でも、24時間体制で医療機関を紹介しているほか、医療機関への交通手段がない場合にタクシーや民間救急車を案内する「サポート救急」という制度もありますので、こちらも御活用ください。

併せまして、川崎市ホームページにて「川崎市救急受信ガイド」を提供しておりますので、救急車の適時・適切な利用をする際の判断材料として御利用くださいますようお願いいたします。

# 「電気火災」が多発しています！

## 電気火災は近年、増加傾向

電気火災とは、その名のとおり、電気機器などが原因で発生する火災ですが、近年、増加傾向となっています。

川崎市内における過去10年間の電気火災件数



## 主な電気火災の発火原と防ぐポイント

川崎市HPの「電気火災が多発しています」も御覧ください。⇒ <https://www.city.kawasaki.jp/840/page/0000152094.html>



### ■ 1位 電気コード (87件)

- ・電気コードを束ねたり、重いものの下敷きになっている状態 で使用しない。
- ・電気コードが傷んでいる場合は使用を控える。



### ■ 2位 電池 (83件)

- ・リチウムイオンバッテリーに衝撃が加わることによって火災になることがあるので、日頃から取扱いに気をつける。
- ・電池を使用する製品は、取扱説明書どおりに使用し、純正品のバッテリーを使用する。
- ・異常がある場合は使用をやめて、メーカーや販売店に相談する。



### ■ 3位 プラグ (80件)

- ・定期的にプラグを抜いて、付着したほこりなどを掃除する。
- ・プラグはしっかりと差し込んだ状態で使用する。
- ・プラグに変形がある場合は使用を控える。

